

2010年度 創価大学教育ビジョン

# 創立50周年へ向けて グランドデザイン元年のスタート

2010年4月

学長 山本 英夫

## 「創立50周年へ向けてグランドデザイン元年のスタート」

本年、創立 40 周年を迎えるにあたり、50 周年へ向けて策定した長期計画「創価大学グランドデザイン」を発表することとなった。その意味で、本年は「グランドデザイン元年」と位置づけることができる。

日本の高等教育界は、少子化・経済不況という大学経営にとって厳しい環境の中で、「分野別質保証」や「学習成果（ラーニングアウトカム）」の評価の問題など、教育の質保証と向上が強く求められている。グランドデザインの策定にあたっては、こうした課題に真摯に取り組むとともに、その努力の成果を内外に積極的に発信し、適正な評価を得ていくことを重要な視点として検討を重ねた。その中で確認されたことは、建学の精神を根本にした人材を、社会に輩出するという本学の本来の使命に、今一度立ち返ることの重要性であった。そして、その使命実現のための具体的な教育・研究システムの再構築と、その教育・研究をサポートする総合的な環境整備への道筋を示すことをグランドデザインの骨格とした。

本学が社会で評価されていくための最終的な目標として、創価大学ならではの人材の育成・輩出を目指し、それを「創造的人間の育成」と表現した。具体的には、「知力」と「人間力」の練磨に徹し抜く学生生活を体験し、生涯にわたって弛みなく自己を鍛練しゆく人材の育成である。この目標達成のために確かな教育力を構築することが、本学の人材育成の根幹をなすものであり、グランドデザインではこうした認識から、教育に関連する具体的な施策として、以下の 9 点を掲げた。

- 「学士課程教育機構」の設置
- 初年次・導入教育の充実と「総合学習支援センター」の開設
- 「創価コアプログラム」の充実と「教養教育」の体系化
- 「グローバル・シティズンシップ・プログラム」の開設
- 新学部設置ならびに学部等の改組転換
- 新「総合教育棟」の建設を中心とした総合的な教育環境の整備
- 奨学金制度の拡充・進路支援を柱とした学生支援の充実
- 国際戦略の新たな目標の設定とその推進
- 新たな大学運営体制の整備とブランド力向上の取り組み

これらの諸施策に関して、本学を構成する全ての成員が、達成目標とその達成度を測る基準（尺度）を共有することにより、グランドデザインで掲げた創立 50 周年における「創造的人間の育成」という創価大学のあるべき姿の実現へ、力強い前進が可能となる。このため、2010 年度教育ヴィジョンを、グランドデザイン達成へのアクションプランと位置づけ、創立 50 周年へ向けてのスタートを切っていききたい。

### 1. 教育の充実について

「創造的人間」の育成を標榜する本学は、「グランドデザイン元年」のアクションプランとして、新たに「学士課程教育機構」の設置、「グローバル・シティズンシップ・プログラム」の開設を行う。この他の施策とあわせて以下に列挙する。

#### (1) 「学士課程教育機構」の設置

本年度は、「学士課程教育機構」を設置し、共通科目と専門科目全体にわたる学士課程教育の質的向上を図ることとした。この機構は、共通科目関連の授業運営を担ってきた「共通科目運営センター」

ならびに「WLC（ワールドランゲージセンター）」と、教育・学習の支援を担ってきた「CETL（教育・学習活動支援センター）」を統括する組織となり、学士課程教育全般の拡充と、学生の学びに対する質保証を一段と加速させることを目指す。また本機構が、高等教育界で検討されているアウトカム評価の問題でも先導的役割を果たすことを期待している。

#### （２）初年次・導入教育の充実と「総合学習支援センター」の開設

昨年度、文部科学省の教育支援 GP に採択された「初年次・導入教育を支える学習支援体制整備」の取り組みを、本格的に展開する。この取り組みを進める中で、2013 年の新「総合教育棟」の完成にあわせた「総合学習支援センター」の開設を目指す。

#### （３）「創価コアプログラム」の充実と「教養教育」の体系化

昨年度導入した、履修スタンダードとしての「創価コアプログラム」の充実を図るため、内容を精査し、あわせて語学科目を中心として授業内容、方法のスタンダード化を推進する。

#### （４）「グローバル・シティズンシップ・プログラム」の開設

本年度から「GCP（グローバル・シティズンシップ・プログラム）」を開設する。このプログラムでは、将来、国際的企業、国際機関等での活躍、海外の大学院への進学を目指す学生を本格的にサポートする。全学部から 30 名を選抜し、徹底した英語教育・数理能力トレーニングを基礎としながら、4 年間にわたりきめ細かい指導を行う。また GCP の全ての科目で学習成果（ラーニングアウトカム）の把握を進めていくこととし、アウトカム評価のパイロットプログラムの役割を担う。

#### （５）学習支援ツールの拡充

昨年度、一部の学部で試行的に導入した「学生ポートフォリオ」を、本年度は全学部で導入する。このシステムは、「学生生活ポートフォリオ」「学習ポートフォリオ」「英語学習ポートフォリオ」「キャリアポートフォリオ」の 4 つの機能をあわせ持つ。学生の自己管理能力を養成するとともに、教員による学業指導、学生同士の支援（ピア・エデュケーション）にも活用する。

本年度、学生証の IC カード化にともない出席確認システムを導入する。これにより学生の出席状況の早期把握が可能となる。本年度から試行的に運用し、2013 年度の完全運用を目指す。

#### （６）e ラーニングの推進と科目ガイダンスのデジタルコンテンツ化

昨年度初めて開講したフル e ラーニングによる授業科目（コンピュータ・リテラシー）のコンテンツの充実を図る。また、戦略連携 GP の採択にともない、e ラーニングを授業外学習に活用できる体制作りを進める。さらに、学生の履修科目の選択を容易にするために、まず経済学部をモデル学部として、科目ガイダンスをデジタルコンテンツ化し、ポータルサイト上に公開する。

通信教育部では、双方向性を確保した e ラーニングによるスクーリングを実施しているが、さらに積極的に展開をしていきたい。

## 2. 教員の研究・教育活動のいっそうの活発化

上記教育の充実に関連して、その基盤をなすものとして、本学教員の研究・教育活動のいっそうの活発化が必須であると考え、そのための施策として、以下の 3 点を挙げておきたい。

#### （１）競争的研究資金獲得のためのバックアップ

昨年度、グランドデザインの計画を前倒して「私立大学戦略的研究基盤形成」「次世代共同研究プロジェクト」、そして「創価大学教員研究開発推進」という新たな研究助成を実施した。また、学事部による外部研究助成金に関する詳細な情報提供が始まった。本年度は外部資金獲得のためのコンサルテーションをさらに充実させて、本学における研究のいっそうの活発化を期待したい。

#### （２）さらなる FD 活動の展開

2 年前に全学 FD 委員会を設置した際、単位の実質化、特に授業外学習時間の増加に、3 年間、全学で取り組むこととした。本年度はこの目標達成のための最終年度となる。学部長を中心として、各学部において目標達成のための最大限の努力を期待する。その上で、本年度は教育の質の保証のために

来年度以降のFD活動の方針を策定する。

### **(3) 教員の総合的業績評価システムの導入**

私立大学は教育と研究をとおして社会に貢献することが期待され、その使命と責任は教員一人ひとりにおいても重要である。そのため、教育と研究の質的な保証を社会に示していくことが大学に望まれている。教員の総合的業績評価は、教員の教育活動、研究活動、そして学内外のその他の活動のいっそうの活性化を目的とする。本年度は「教員の総合的業績評価委員会」を設置し、評価項目を決定して、教員の総合的業績評価の来年度の試験的運用を目指す。

## **3. 新学部設置ならびに学部等の改組転換**

創立50周年の本学のあるべき姿を目指して、今後10年間で3つのステージに分け、研究・教学組織の再編成に取り組む。まず、本年度は、時代のニーズに適い、かつ本学の教育理念をより鮮明に実現する新たな学部の設置を検討する委員会を発足させる。また、既設の研究科・学部の改組も視野に入れた検討も開始する。

## **4. 新「総合教育棟」の建設を中心とした総合的な教育環境の整備**

2013年の完成を目指して、新「総合教育棟」が本年度いよいよ着工される。現在、設計の最終段階を迎えているが、この施設のコンセプトは、あくまでも「学生中心」の教育・学習環境の最高峰を目指すことにあり、教室・学習スペース、学習支援スペース等において、コンセプトを具現化するための検討を継続していく。

## **5. 奨学金制度の拡充・進路支援を柱とした学生支援の充実**

世界金融恐慌に端を発する経済状況の急激な悪化により、学生の家計、卒業生の進路・就職状況は極めて厳しい状況にある。グランドデザインでは、教育の充実が中心となっているが、それを裏切るものにしていくためには、学生を支援する体制の充実が不可欠である。以下に、具体的な取り組みとして4点を掲げる。

### **(1) 給付奨学金を中心とした奨学金制度の拡充**

奨学金については、2007年度より、経済的に厳しい家計状況にある学生のために「創価大学給付奨学金（授業料減免）制度」を導入した。過去3年間の実施の経験から、同奨学金制度の拡充の必要を痛感しており、同窓会ならびに関係者等の協力もいただいて、拡充の実現を図る。

### **(2) 就職支援の拡充**

新卒採用の環境は就職氷河期の再来ともいわれ、各企業とも厳選採用の傾向が強くなるなか、1～4年次までの一貫した全学の進路・就職支援体制がますます重要となる。本年度、「創価大学キャリア委員会」を新たに発足させ、全学的な進路・就職の数値目標の他、進路・就職に対する意識・能力の向上を目指した具体的な施策の検討を開始する。

### **(3) 安全で健康な学生生活のための取り組み**

大切な学生の生命と健康を守るため、交通安全と防犯対策には常に最善を尽くしていく。昨年度はウルトラ防犯灯を設置する等、キャンパス内の防犯を強化したが、本年度もさらに交通安全キャンペーンや各種防犯講習会を通じて学生の安全・防犯意識の向上を呼びかけていく。また、学生の健康を守るとの観点から、昨年度、全学禁煙化検討委員会、全学協議会の議を経て2013年4月からの本学敷地内全面禁煙化が決定した。本年度は禁煙化キャンペーン元年として、喫煙者の減少と、喫煙を始めないための呼びかけを開始する。

### **(4) クラブ活動の支援**

学友会クラブ活動については、本学として学生の自主性を尊重し、良き伝統を継承する。その上で昨年度、教育全体における適正な位置づけを行うため、「クラブ活動に関する基本方針・基本原則」を

決定した。学友会はこれを受けて「適正なクラブ活動のためのガイドライン」を、各クラブの賛同を得て作成した。学生自身によるクラブ活動適正化への自主的な取り組みとして評価したい。本年度は、クラブ顧問会議を開催し、各クラブへの側面からの支援を充実する。

## **6. 国際戦略の新たな目標の設定とその推進**

創立 50 周年を目指して、本学は留学生の受け入れ及び在学生の海外留学の規模の拡大に取り組む。本年度は以下のとおり、組織・制度の側面から充実を図っていく。

### **(1) 留学生への教育サービスを向上させる「日本語・日本文化教育センター」の新設**

留学生への教育サービス向上を目指し、「JSEC (日本語・日本文化教育センター)」を開設する。JSEC は、交換留学生に対する日本語特別課程を提供する。あわせて、英語で日本事情を学ぶ共通科目「JSP (Japan Studies Program)」も JSEC のもとで充実を図る。さらに、交流校からの学生を対象として、2 週間から 1 カ月程度の短期日本語・日本文化研修プログラムの提供も積極的に進めていく。

### **(2) 英語中位レベルの学生のための新たな英語海外研修プログラムの導入**

英語力が中位レベルの学生を主要な対象として、確実に語学力をアップできるように、期間 1 セメスターの新たな海外留学コースの開設を進める。

### **(3) 非英語圏への交換留学・短期研修の機会の充実**

英語力が一定の高いレベルに達した学生を対象として、第二外国語の習得を目指す非英語圏への交換留学の機会を提供することに加え、主要な第二外国語については、短期語学研修プログラムを実施していく。また、その他の非英語圏でも、現地交流大学の積極的な協力を得られる場合、短期の文化体験型プログラム (研修で使われる言語は英語) の実施を検討していく。

## **7. 新たな大学運営体制の整備とブランド力向上の取り組み**

少子化時代を迎え、各大学のガバナンスが問われている。本学もこのガバナンスとブランド力を強化することを狙いとして、本年度は以下の 3 点に取り組む。

### **(1) 新たな意思決定機関としての「大学教育研究評議会」の設置**

本年度より、従来の「全学教授会」にかわる機関として「大学教育研究評議会」を設置することとし、学則ならびに関連諸規程を改正した。これにより、諸会議を整理し、教学事項に関する意思決定の迅速化を図る。また「学長室会議」を新設し、意見の集約・調整等、学内のコミュニケーションの円滑化にも努める。大学を取り巻く社会環境の変化に遅滞なく対応することはもとより、むしろ大学改革のトップランナーに立つ自覚でこれらの成果を示していきたい。

### **(2) 「ステークホルダー連携推進室」設置の検討**

本学を支えるステークホルダーとの連携を強化し、ステークホルダーの声を大学運営に反映させていくことが、本学の評価や信用を高めることに通じていく。そこで本年度は「ステークホルダー連携推進室」の設置を目指し、各部署と連携を取りながらステークホルダーへの情報提供等、サービスの向上を図っていく。

### **(3) ブランド力の向上を意識した広報計画の検討**

ブランドデザイン全体をとおして、本学の将来像を明らかにしていくとともに、戦略的な広報計画を立案し、本学のブランドを確立・発展させていく。“Discover your potential” のステートメントや本学のロゴ、デザインの仕様等にも統一感のある取り組みを展開する。本学の特色、魅力を可視化し、訴求力のあるものにしていきたい。